

年	組	名前
---	---	----

わさだタウンに「ルーム」移転から5年

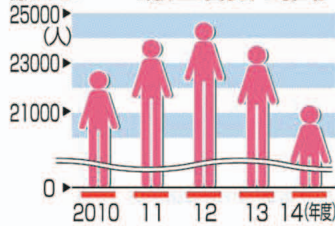
献血12年ピークに減

県内唯一の常設献血施設「県赤十字血液センターわさだ出張所」（愛称・献血ルームわったん）が、大分市玉沢のトキハわさだタウン内に移転して丸5年たった。大型商業施設の持つ若年層への高い集客力に期待したが、2012年をピークに献血者は減少。献血者が減少する冬場を前に協力を呼び掛けている。



受付で説明を受ける献血協力者（右端）＝大分市

献血ルーム献血者数の推移



献血ルームわったんは10年9月に中心市街地のオアシスひろば21(同市高砂町)から移転。白を基調とした約450平方メートルの室内に14のベッドが並び、落ち着いた雰囲気の中で献血ができる。同出張所によると、移転初年度は商業施設の集客力もあり前年度に比べ35

若者の協力が不可欠

50人増え、2万2701人が献血した。東日本大震災により、献血への意識が高まり12年度(2万4656人)までは増加したが、その後は減少に転じている。

出張所では献血ルームでの献血者を増やすため、コミック本を並べるなど若年層もくつろげる空間づくりを工夫。小さい子どもを連れて献血ができるようキッズスペースも設けられている。

広瀬光枝所長は「安定して血液を供給していくためには、若い世代の献血者を増やしていかなければならない」と話し「1人で献血ルームに入るには勇気が要るかもしれないが、その一歩を踏み出して」と呼び掛ける。

献血ルームでの献血者数は県内全体の45%ほどを占める。献血者数の減少により、献血バスの稼働を増やして献血量の確保に努めているが、県内で必要とされる量に対し「ギリギリの状態が続いている」という。

(2015年9月28日朝刊23面)

献血ルームが移転して丸5年ですが、2012年度をピークに献血者は減少しています。

①12年度まで献血者が増加したのは意識の高まりのためですが、なぜ高まったのでしょうか。

.....

.....

.....

.....

③若者の献血を増やすためのアイデアを考えてみよう。

②献血された血液は、どのように使われていますか。調べてみよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....